

# 実社会や実生活に生きて働く国語の資質・能力を育成する授業の創造

—自ら言葉を吟味する必要がある単元の開発—

授業者 碓氷 愛実

指導助言者 埼玉大学教育学部 准教授 本橋 幸康 先生

## 1 単元の目標

- (1) 相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。 [知識及び技能] (1)エ
- (2) 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] A(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力, 人間性等]

## 2 本単元における言語活動 (単元名:合意形成のできる話し合いをプロデュースしよう)

合意形成に向かうために必要なことを考えて、話し合う活動。(関連:言語活動例イ)

## 3 単元の評価規準 ( )内は該当する指導事項等の記号

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ)	①「話すこと・聞くこと」において、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。「A 話すこと・聞くこと」オ)	①粘り強く、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして話し合おうとしている。



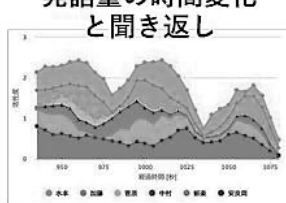
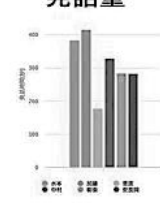
## 4 指導と評価の計画 (6時間)

時	主たる言語活動	評価する内容	評価方法
1	○学習のねらいや進め方を知り、学習の見通しをもつ。 ○合意形成のできる話し合いのために必要な要素(「話し合いの要素」)を班で考え、まとめる。 ○「話し合いの要素」を他班に伝達する。		
2 ~ 5	○伝達した「話し合いの要素」のもとで、他班が話し合いを行っている様子を観察・分析する。 ○(他班の提案した「話し合いの要素」のもとで話し合いを行う。) ○他班とともに話し合いを振り返り、「話し合いの要素」の有用性を検証したり、さらに必要な要素を検討したりする。 ※話し合いの観察・分析~振り返りを3回繰り返す。	[主体的に学習に取り組む態度] ① [知識・技能] ①  [思考・判断・表現] ①  ※評価するタイミングは班が取り組む言語活動によるため、同一ではない。	ワークシート・メモ 話し合いの観察 メモ・振り返りの観察
6	○検証結果をまとめ、ブース移動形式で班ごとに発表を行う。 ○単元の振り返りを行う。	[思考・判断・表現] ①	発表材料・観察

時	ねらい、学習活動	〔指導上の留意点〕	評価規準・評価方法
1	<p>○学習のねらいや進め方を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>○合意形成のできる話し合いのために必要な要素（「話し合いの要素」）を考え、班でまとめる。</p> <p>必ず触れる項目            ① 話し合いにおいて「合意形成」とはどのような状況を指すのか。            ② ①のような状況になるには、どのような要素が話し合いに必要なか。</p> <p>期待したい生徒の記述の例（一部）（ワークシートより）            ①「合意形成」とは…様々な立場や考えの人がもっているいろいろな意見を、しっかり出し合ったうえで、一定の納得がある落としどころを見つけること。            ②「話し合いの要素」            (1)議題について…いろいろな意見が出やすいもの。                簡単には決められず、慎重な検討が必要なもの。                人それぞれだね、で終わらないもの。            →ボランティア活動の内容・社会問題・環境問題・校則（ルール）・学級目標 など            (2)進め方について            ・司会を立てる…全員に話を振る。意見をまとめる。→意図的に視点を変えることもある。                「～という話が出ましたが、〇〇さんはどう？」                「〇〇というところは一致していますね」                「しかし、〇〇となると、△△な状況が生まれるということになります」            ・ホワイトボードを用意する…意見を可視化できる。メモが遅いとテンポが悪くなる？            ・最初は全員が議題についての意見を簡単に話す→全員の考えがわかる。            ・共通点、相違点を整理して、それぞれの意見の理由を聞く。</p> <p>○「話し合いの要素」を他班に伝える。</p>	<p>・今まで行ってきた様々な話し合いを想起させ、「合意形成」とは話し合いにおいてどのような状態を指すのか、「合意形成」を生むにはどのような要素（議題・手法・話し方 等）が話し合いに必要なのかを探究させる。</p> <p>・次時に話し合いを実施し、観察・分析をするため、議題や方針（話し合いに臨む上での事前の準備内容）を他班に伝達させる。</p>	
2 く ④ 本 時 ・ 5	<p>○伝達した「話し合いの要素」のもとで、他班が話し合いを行っている様子を観察・分析する。</p> <p>○（他班の提案した「話し合いの要素」のもとで話し合いを行う。）</p> <p>○他班とともに話し合いを振り返り、「話し合いの要素」の有用性を検証したり、さらに必要な要素を検討したりする。</p>	<p>・「Hylable Discussion<sup>※</sup>」を用意して、話し合いの様子を量的に記録できるようにする。</p> <p>・誰の、どのような発言が合意形成に有効だったかを振り返るために、発言はメモと「Hylable Discussion」での記録によって確認できるようにする。</p> <p>・話し合いの参加者から、話し合いの感想を聞き取り、良い点や改善点を見いだせるようにする。</p> <p><small>※「Hylable Discussion」…録音した話し合いを自動分析し、グラフやレポートで視覚化するサービス。</small></p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① ワークシート・メモ ・ここでは、既習事項を想起しながら、合意形成に必要な要素を試行錯誤しながら見つけることができているかを確認する。</p> <p>[知識・技能] ① <u>観察</u> ・ここでは、相手や場に応じた言葉遣いを理解し、相手に自分の考えが適切に伝わるように話すことができているかを確認する。</p>

期待したい生徒の話し合いの内容とそれに対する分析の例（一部）

話し合いでの発言（議題：卒業前の活動について）	分析
<p>(荒井) 卒業前だとみんな入試があつてなかなか準備の時間も取れないから、ビデオの作成は難しいんじゃないかな。</p> <p>(小西) 確かにそうかも。企画倒れになるのが一番よくないことだと思う。</p> <p>(森) ビデオ作成は現実的ではないということかな。</p> <p>(確氷) でも……やっぱり記録に残るものが良いと思う。スマホとかで写真や動画を見返すと思い出が甦るじゃない？</p> <p>(荒井) それはそうだけど…。じゃあ、確氷さんが編集してくれるならいいけどね。</p> <p>(小西) それは大変だと思うよ。ね。確氷さん。</p> <p>(大塚) どうしてもビデオ作成だと、編集する人の負担が多くなって、みんなで作った感じがしないから、やめようよ。</p> <p>(森) では「みんなが関われる」ものにしてはどうでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• やや決まりかけたところで、現実的な視点から切り返す。</li> <li>• 2人の意見をまとめている。ビデオの提案者（確氷さん）に話を振るとよい？</li> <li>• 確氷さんが「やる」と言ったらビデオで決定したのか？それは合意形成といえる？この発言はどのように話せば意図が伝わっただろうか。</li> <li>• 活動の条件を追加。「みんなが関われる」。</li> <li>• 大谷さんはここまでほとんどしゃべっていない。</li> </ul>

<p>Hylable Discussion の結果</p> <p>行動傾向の分析</p>  <p>会話のやりとり</p>  <p>発話量の時間変化と聞き返し</p>  <p>発話量</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 荒井さんと確氷さんが支配的 →比較的、否定的な方向の意見が多いので、否定だけでなく、提案につながる発言を促すとよいか。</li> <li>• 発話量は大谷さんが少ない →大谷さんに限らず、肯定・否定だけでなく、「どうしてそう思うのか」をしっかりと話してもらったほうがよい。</li> <li>• 荒井さんの話を受けて小西さんが話すことが多い →フォロー的な発言を良くしている。こういうフォローがあることが合意形成につながるかもしれない。</li> </ul>
---	--

○振り返りを受けて、「話し合いの要素」を修正する。

※話し合いの観察・分析～振り返りを3回繰り返す。

• 「話し合いの要素」を修正した後、その効果を確認するためにもう一度同じ班員に話し合い（2回目）を行う。議題は前回は引き継ぐものか新規のものかは状況に応じて適切なほうを選択させる。

• 最後の話し合い（3回目）は、修正案の汎用性を確認するために、今までと異なる班員で話し合えるようにする。

**【思考・判断・表現】①**  
**メモ・振り返りの観察**

• ここでは、実際の話し合いで行われた進行の仕方や発言を例示して、話し合いの良い点や改善点を見出すことができているかを確認する。

6 ○検証結果をまとめ、ブース移動形式で班ごとに発表を行う。

○単元の振り返りを行う。

• 実際の生徒の発言や動画等を紹介させ、班での成果が共有できるようにする。

• 身についた力やできるようになったこと等を記入させる。

**【思考・判断・表現】①**  
**発表材料・観察**

• ここでは、自らの合意形成に向けた働きかけによって生まれた成果を、具体例を示しながら説明できているかどうかを確認する。

## 5 本時の学習指導（4／6）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>目標 合意形成に向けて、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合おう。</p> <p>1 本時の学習の目標と流れを確認する。【全体】</p> <p>2 伝達した「話し合いの要素」のもとで、他班が話し合いを行っている様子を観察・分析する。 （他班の提案した「話し合いの要素」のもとで話し合いを行う。）【グループ】</p> <p>3 他班とともに話し合いを振り返り、「話し合いの要素」の有用性を検証する。【グループ】</p>	<p>○生徒とやりとりしながら学習の共通しをもたせる。</p> <p>○誰の、どのような発言が合意形成に有効だったか等を振り返るために、発言はメモと「Hylable Discussion」での記録によって確認できるようにする。</p> <p>○話し合いを実際に行う班員は、提案された「話し合いの要素」を踏まえて、合意形成に向けて適切な言葉遣いのもとで話し合うようにする。</p>	<p>評価場面（話し合う生徒のみ）</p> <p>〈評価規準〉 [知識・技能] ① 〈評価方法〉 ・観察 ・録音データ ・相手や場に応じた言葉遣いを理解し、相手に自分の考えが適切に伝わるように話すことができているかを確認する。 〈Cと判断する状況への手立て〉 ・相手を説得したいがために、言葉遣いが荒くなってしまっている生徒や、くだけすぎた言葉を使っている生徒には、録音データを聞かせることで、自らの発言を客観的に捉えさせる。</p>
<p>期待したい生徒の振り返りの例（一部）</p> <p>【話し合いした班の感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めにそれぞれの意見を簡単に述べたことで、みんながどのようなことを考えているかわかったので、合意に向けた焦点を決めやすかった。</li> <li>・司会をしているので、なかなか自分の意見を言えないのがつらかった。事前に準備してきた内容をほとんど話せなかった。</li> <li>・司会の人に話を振られないと話にくい部分があった。</li> <li>・時間で強制的に絞らざるを得ない部分があった。とはいえ時間には限りがある。短時間での合意形成はどうすればよいか。</li> <li>・自分の提案は採用されなかったが、どうしてダメなのかがしっかり話すことができたので、納得できた。</li> </ul> <hr/> <p>【意見や分析を受けての修正点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の立場の確認は引き続き行っていく。内容が分岐していくごとに、立場の確認をしていくとよいか。→多数決感が出る？</li> <li>・司会を立てない→その際の進行役は誰が行うのか。</li> <li>・「確氷さんが編集するならいいよ」の発言で、意地の張り合いになってしまったら、合意形成からは遠ざかる。→提案した人が責任をとるような、着地の仕方はよくない。みんなで責任をとるために、「このままでは難しい」という伝え方が必要。つまり、当初のねらいを押さえながら確認していくとよいのでは。</li> </ul> <p>4 本時のまとめを行う。【全体】</p>		<p>評価場面</p> <p>〈評価規準〉 [思考・判断・表現] ① 〈評価方法〉 ・振り返りの観察 ・実際の話し合いで行われた進行の仕方や発言を例示して、話し合いの良い点や改善点を見出すことができているかを確認する。 〈Cと判断する状況への手立て〉 ・発話量のみ注目してしまっている場合には、話の内容や聞いている様子にも目を向けさせ、話し合いを成立させるためには様々な要素があることに気づかせる。 ・話し合いの流れや内容の具体的な発言のみを取り上げて評価している場合には、なぜそのような発言が効果的だったのか等を考えさせ、他の話し合いでも使えるかどうか検討させる。</p>

## 6 研究協議

### (1) 協議内容

- ・議題を生徒に決めさせたことで、「合意形成」をする必要がない議題や指導事項である「社会生活」から外れた議題を提案しているグループがあった。→合意しないといけなく、合意を得にくい議題を考えさせる必要があった。それを生徒が導き出すのは難しいのではないかと。指導内容の見直しが必要。
- ・教師がファシリテーターのような役割を担い、生徒自身で試行錯誤する場になっていたのはよかった。

### (2) 指導・講評（埼玉大学教育学部 准教授 本橋 幸康 先生）

- ・ワークシートによって、生徒が自らの思考を自分の言葉でまとめるプロセスは学習の振り返りに有効。
- ・情報を関連付けてまとめることに課題がある生徒が多い。自らの立場を明確にし、情報を収集、情報の意味付けや価値付けをしていくようなプロセスを教師がモデルとして示していくとよい。
- ・学習用語の理解。生徒への指示の工夫。「分かりやすくまとめる」→何をもって「分かりやすい」のか。